

令和5年度 家串小学校 後期自己評価書

：郡内共通目標 **赤字：都統一貫事項関連** **5ポイント以上改善** **5ポイント以上低下**

：郡内共通目標

：グランドデザインとの関係

：グランドデザインとの関係

5ポイント以上低下

担当	重点目標	評価指標及び目標値(期待される姿)	評価	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	アンケート結果(%)				
						4	3	2	1	?
飯田	1 確かな学力の定着と向上に努める	確かな学力の定着向上に向けて計画的・組織的に学習指導の工夫を行っているか。 目標値：教職員・保護者の85%以上が肯定	A	◇教職員の肯定率が前回85.7%に対して、今回100%に向上している。保護者の肯定率は前回91.7%に対して今回86.7%になっている。少しの上がり下がりはあるが、おおむね良好である。 ◆今年度は年間10回の校内授業研究を行った。児童に確かな学力を定着させるためには、教職員の指導力向上が不可欠である。次年度も、校内授業研究を通し、全教職員の指導力向上に努める。	教職員(Q1) 57.1 42.9 0.0 0.0 R5前期 28.6 57.1 14.3 0.0 保護者(Q1) 33.3 53.3 13.3 0.0 R5前期 25.0 66.7 8.3 0.0	教職員の肯定評価：100% 保護者の肯定評価：86.7%				
飯田		小規模校のよさを生かした個に応じたきめ細かに学習指導の工夫を行っているか。 基本を身に付けさせることができているか。 目標値：単元末テスト(国語・算数)の正答率平均値が80点以上を達成。教職員の85%以上が肯定	B	◇教職員の肯定率は100%である。単元末テストの結果も、国語科では1.3%向上している(算数科は変わらない)。しかし目標値には少し届かなかった。算数科より国語科に課題がある。県学力診断調査の結果では、5教科のうち国語科だけ愛媛県の平均正答率を0.6ポイント下回った。 ◆複式授業で身に付けることができる力(自学自習の力等)など、家串小だからこそできる学力向上の在り方を検討する。また、対話をするために必要な力について研修を積んできたが、自分の考えを文章に書いてまとめる力の育成について実践研究を行う。	教職員(Q4) 85.7 14.3 0.0 0.0 R5前期 85.7 14.3 0.0 0.0	国語科79.9% 算数科83.5%(R5年度 2学期) 国語科78.6% 算数科83.5%(R5年度 1学期)				
飯田		低学年30分、中学年45分、高学年80分以上の家庭学習の習慣が身に付いているか。 目標値：教職員・児童・保護者の85%以上が肯定	C	◇教職員、保護者は、前回より評価が下がっている。児童の評価は79.2%から83.4%と上がっているが、ピシット週間の様子を見ると、1学期の取組成果より少し下がっている。保護者の評価について、前回はマイナス評価が1名だったが、今回は6名に増えている。 ◆保護者が家庭学習に対して十分ではないと考えている理由を調べ、そこから改善の糸口を探す。ピシットカードの保護者コメント欄に記入してもらったり、学力向上だよりで呼び掛け、フォームを使って保護者の意見を集めたりして、解決を図る。	教職員(Q1③) 28.6 57.1 14.3 0.0 R5前期 42.9 57.1 0.0 0.0 児童(Q12) 54.2 29.2 12.5 4.1 R5前期 41.7 37.5 16.7 4.1 保護者(Q2) 0.0 60.0 33.3 6.7 R5前期 16.7 75.0 0.0 8.3	教職員の肯定評価：84.7%→100%(1学期) 児童の肯定評価：83.4%→79.2%(1学期) 保護者の肯定評価：60%→91.7%(1学期) ピシット週間チェック表による児童の肯定評価：75.5%→77.0%(1学期)				
井上		コンピュータ等を使った学習は楽しいか。 目標値：教職員・児童の85%以上が肯定	C	◇教職員の肯定評価は、前期同様低めである。児童も肯定評価95.8%と高めではあるが、初めて100%を下回った。前期の考察とも関わるが、ICTはもはや当たり前前の文房具となりつつある。これまでは、検算等インプットでの活用が多かったICTが、プレゼン作りなどアウトプットでの活用となり、どちらかというと子どもにとって難易度の高い学習が増えてきたのではないかと感じる。 ◆EILSの活用も含め、コンピュータを使った学習に関する実践的ミニ研修を、月に1回行う。	教職員(Q1②) 42.9 14.3 42.9 0.0 R5前期 14.3 42.9 42.9 0.0 児童(Q5) 79.2 16.7 4.1 0.0 R5前期 91.7 8.3 0.0 0.0	教職員の肯定評価：57.2% 児童の肯定評価：95.9%				
浅井	2 生徒指導の徹底と健全育成に努める	教育相談やアンケートなどを実施し、児童一人一人の悩みを把握し、いじめを解消する手立てを講じているか。 目標値：教職員・児童の85%以上が肯定	A	◇児童の評価が全体的に下がっている。毎月行っている教育相談では、大きな不安がある発言は出ていない。学習面や友達との関係において、少しの不安を感じている児童については共通理解を図っている。2と評価している1名の児童については、特に寄り添った支援が必要である。 ◆学校評価と質問事項が重複していることから、「なかよしアンケート」の実施を見送っていたが、教育相談だけでなく、学期に1回はなかよしアンケートを実施する。	教職員(Q2②) 100.0 0.0 0.0 0.0 R5前期 85.7 14.3 0.0 0.0 児童(Q2) 58.3 37.5 4.2 0.0 R5前期 72.7 27.3 0.0 0.0	教職員の肯定評価：100% 児童の肯定評価：95.8%				
浅井		全ての児童が、楽しいと言える学校づくりに努めているか。 目標値：教職員・児童・保護者の85%以上が肯定	A	◇学校行事やさまざまな教育活動において、外部との関わりが増え、児童が楽しいと思える学校になったといえる。前期に2の評価だった児童が3以上の評価になっていることが大きな成果と思われる。しかし、1と評価した保護者がいる。これは、児童の姿を通じた評価である。 ◆児童が教職員や友達、地域住民とともに学び、認められる喜びを味わえるように活動を工夫し、児童の自己肯定感を高める。 ◆保護者が相談しやすい教職員集団を構築し、組織的対応に努める。	教職員(Q2③) 100.0 0.0 0.0 0.0 R5前期 71.4 28.6 0.0 0.0 児童(Q1) 83.3 16.7 0.0 0.0 R5前期 79.2 29.2 4.6 0.0 保護者(Q6) 40.0 53.3 0.0 6.7 R5前期 25.0 66.7 8.3 0.0	教職員の肯定評価：100% 児童の肯定評価：100% 保護者の肯定評価：93.3%				
浅井		児童は進んで挨拶ができていますか。 目標値：教職員・児童・保護者・地域住民の85%以上が肯定	C	◇前期同様、児童の評価は高いが、保護者、地域住民の評価は高くない。教職員の評価が低い要因は、今年度の防災教育を通して、率先避難者としての児童の育成に努めたものの、知っている人以外への児童の声掛けや挨拶が不十分だと感じたためだと考えられる。 ◆全校話し合い活動の1月のテーマに「気持ちの良いあいさつをしよう」を掲げた。児童自身が自分たちの挨拶について振り返るとともに、実践へつなげるため、教職員が共通理解の下、それを見守り励ましていく。	教職員(Q5③) 0.0 57.1 42.9 0.0 R5前期 0.0 42.9 57.1 0.0 児童(Q6) 62.5 33.3 0.0 4.2 R5前期 75.0 20.8 4.2 0.0 保護者(Q3) 6.6 66.7 26.7 0.0 0.0 R5前期 16.7 58.3 25.0 0.0 0.0 地域住民(Q1) 23.5 52.9 23.5 0.0 0.0 R5前期 25.0 50.0 18.3 0.0 6.3	教職員の肯定評価：57.1% 児童の肯定評価：95.8% 保護者の肯定評価：73.3% 地域住民の肯定評価：76.4%				
井上	3 教職員の資質・能力と学校組織の活性化	職場全体で意識改革を図り、業務の見直しなどによる働き方改革を進めているか。 目標値：教職員の85%以上が肯定	A	◇前期と比べ、肯定評価が上がっている。評価もAとなった。校務支援システムの活用や業務負担の分担などが功を奏していると考えられる。 ◆引き続き校務支援システムの積極的活用にとともに、公平性のある業務分担を行い、全教職員が働きやすい職場づくりを進める。	教職員(Q4②) 42.9 42.9 14.3 0.0 R5前期 28.6 71.4 20.0 0.0	教職員の肯定評価：85.7%				
島内		校内及び校外の研修に主体的に取り組み、自己研鑽に努めたか。 目標値：教職員の85%以上が肯定	A	◇4評定が下がったものの、肯定率は100%である。校内の研究授業、また郡内研究の授業者に積極的に取り組んだことの結果と考えられる。 ◆これまでの校内研修の成果を基に全教職員で課題を共有し、研究授業を通して課題を解決していく。 ◆校外の研修で学んだことを全体へフィードバックすることで、教育活動への取組の質的向上を図る。	教職員(Q4①) 85.7 14.3 0.0 0.0 R5前期 100.0 0.0 0.0 0.0	教職員の肯定評価：100%				

浅井	4 豊かな心を育てる教育の推進	B	<p>友達や教職員、地域の人々との交流を通して、思いやりの心や、優しい態度が育っているか。</p> <p>目標値：教職員・保護者・地域住民の85%以上が肯定</p>	<p>◇前期と比較すると、全体的に評価が上がっている。2学期には地域での学習も増え、特に防災教育を通して地域の方や保護者と関わる場面が多かったことが要因と考える。しかし、前期よりも「分からない」と回答している地域の方がいることから、学校からの発信方法に課題があることも考えられる。</p> <p>◆児童が行っているハートウォーミング集会の感想やハートレターの内容などを学級通信、学校便り、ホームページ等を通じてどんどん発信し、児童の心の成長を伝えていく。</p>	<table border="1"> <tr><td>教職員(Q3①)</td><td>42.9</td><td>57.1</td><td>0.0</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>R5前期</td><td>42.9</td><td>57.1</td><td>0.0</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>保護者(Q9)</td><td>40.0</td><td>40.0</td><td>20.0</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>R5前期</td><td>33.3</td><td>33.3</td><td>33.3</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>地域住民(Q2)</td><td>17.6</td><td>52.9</td><td>11.8</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>R5前期</td><td>12.5</td><td>56.3</td><td>18.8</td><td>0.0</td></tr> </table> <p>教職員の肯定評価：100% 保護者の肯定評価：80% 地域住民の肯定評価：70.5%</p>	教職員(Q3①)	42.9	57.1	0.0	0.0	R5前期	42.9	57.1	0.0	0.0	保護者(Q9)	40.0	40.0	20.0	0.0	R5前期	33.3	33.3	33.3	0.0	地域住民(Q2)	17.6	52.9	11.8	0.0	R5前期	12.5	56.3	18.8	0.0
			教職員(Q3①)	42.9	57.1	0.0	0.0																												
R5前期	42.9	57.1	0.0	0.0																															
保護者(Q9)	40.0	40.0	20.0	0.0																															
R5前期	33.3	33.3	33.3	0.0																															
地域住民(Q2)	17.6	52.9	11.8	0.0																															
R5前期	12.5	56.3	18.8	0.0																															
片山	A	<p>地域の人々との交流活動や勤労・奉仕などの体験活動の推進に努めたか。</p> <p>目標値：教職員の85%以上が肯定</p>	<p>◇前期と比較すると、肯定率は100%となり目標値を達成している。学校行事も多く、保護者の方や地域の方と協働する場面が多かったことが要因だと考えられる。</p> <p>◆担当教員はもとより、どの教員も地域との関わりを深め、体験的な教育活動を実施する。</p>	<table border="1"> <tr><td>教職員(Q3③)</td><td>42.9</td><td>57.1</td><td>0.0</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>R5前期</td><td>57.1</td><td>28.6</td><td>14.3</td><td>0.0</td></tr> </table> <p>教職員の肯定評価：100%</p>	教職員(Q3③)	42.9	57.1	0.0	0.0	R5前期	57.1	28.6	14.3	0.0																					
教職員(Q3③)	42.9	57.1	0.0	0.0																															
R5前期	57.1	28.6	14.3	0.0																															
浅井	5 健康教育の推進	B	<p>認め合い、支え合い、高め合う支持的風土をもった集団づくりに努めたか。</p> <p>目標値：教職員・児童・保護者の85%以上が肯定</p>	<p>◇前期同様、教職員の肯定率は100%であり、教職員全員が支持的風土づくりに努めたことがうかがえる。しかし、評価が下がっている児童の原因を面接等で明らかにする必要がある。</p> <p>◆学校内ではハートレターが浸透しており、友達への感謝の気持ちや良さを認める気持ちが育っている。それが一部の児童に偏ることなく、全体の風土として定着させるため、児童の支持的な言動を言語化して伝えるとともに、賞賛し、望ましい言動を全体に広げる。</p>	<table border="1"> <tr><td>教職員(Q3②)</td><td>28.6</td><td>71.4</td><td>0.0</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>R5前期</td><td>14.3</td><td>85.7</td><td>0.0</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>児童(Q7)</td><td>29.2</td><td>50.0</td><td>8.3</td><td>12.5</td></tr> <tr><td>R5前期</td><td>33.3</td><td>50.0</td><td>16.7</td><td>8.3</td></tr> </table> <p>教職員の肯定評価：100% 児童の肯定評価：79.2%</p>	教職員(Q3②)	28.6	71.4	0.0	0.0	R5前期	14.3	85.7	0.0	0.0	児童(Q7)	29.2	50.0	8.3	12.5	R5前期	33.3	50.0	16.7	8.3										
			教職員(Q3②)	28.6	71.4	0.0	0.0																												
R5前期	14.3	85.7	0.0	0.0																															
児童(Q7)	29.2	50.0	8.3	12.5																															
R5前期	33.3	50.0	16.7	8.3																															
芝	B	<p>児童は健康に気を付け、元気に学校生活を送ることができているか。</p> <p>目標値：「全員出席の日」授業日数の75%以上を達成</p>	<p>◇全員出席の日は2学期末現在で、108日(73.4%)であり、目標値の75%には達していない。2学期は発熱や咳の症状で欠席する児童が多く見られた。感染症対策が緩和され、移動範囲が広がったり、人流が回復したりしたことなどが原因と考えられる。</p> <p>◆必要な感染防止対策について、その都度指導をしていく。保健集会や保健だよりなどを通して正しい情報を発信するとともに、規則正しい生活習慣についても保護者と連携しながら指導を継続していく。</p>	<table border="1"> <tr><td>R5後期</td><td>108日</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R5前期</td><td>50日</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>1学期末で50日(73.5%)達成 2学期末で108日(73.4%)達成</p>	R5後期	108日				R5前期	50日																								
R5後期	108日																																		
R5前期	50日																																		
片山	5 健康教育の推進	B	<p>朝マラソン、放課後の体育的活動を中心に、児童の体力増進と健康の保持増進に積極的に取り組めたか。</p> <p>目標値：教職員・児童・保護者の85%以上が肯定</p>	<p>◇前期と比較すると、教職員は変化がなく、保護者の評価は上がっている。しかし、児童の肯定評価が下がり、「1」の評価にした児童も数人いる。インフルエンザなどの感染症で体力作りができなかったことや、欠席があったことが影響していると考えられる。</p> <p>◆3学期に入り、ふれあいマラソンや校内持久走大会に向けて、朝マラソンだけでなく体育科の授業においても楽しく体力を向上させる工夫をしていく。また、大会が終わった後も賞賛の声掛けを続け、児童のやる気を継続させる。</p>	<table border="1"> <tr><td>教職員(Q5④)</td><td>42.9</td><td>57.1</td><td>0.0</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>R5前期</td><td>42.9</td><td>57.1</td><td>0.0</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>児童(Q10)</td><td>37.5</td><td>37.5</td><td>12.5</td><td>12.5</td></tr> <tr><td>R5前期</td><td>70.8</td><td>12.5</td><td>16.7</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>保護者(Q7)</td><td>26.7</td><td>66.7</td><td>6.6</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>R5前期</td><td>25.0</td><td>66.7</td><td>8.3</td><td>0.0</td></tr> </table> <p>教職員の肯定評価：100% 児童の肯定評価：75% 保護者の肯定評価：93.3%</p>	教職員(Q5④)	42.9	57.1	0.0	0.0	R5前期	42.9	57.1	0.0	0.0	児童(Q10)	37.5	37.5	12.5	12.5	R5前期	70.8	12.5	16.7	0.0	保護者(Q7)	26.7	66.7	6.6	0.0	R5前期	25.0	66.7	8.3	0.0
			教職員(Q5④)	42.9	57.1	0.0	0.0																												
R5前期	42.9	57.1	0.0	0.0																															
児童(Q10)	37.5	37.5	12.5	12.5																															
R5前期	70.8	12.5	16.7	0.0																															
保護者(Q7)	26.7	66.7	6.6	0.0																															
R5前期	25.0	66.7	8.3	0.0																															
芝	B	<p>「早寝、早起き、朝ごはん」の習慣が身に付いているか。</p> <p>目標値：児童・保護者の85%以上が肯定</p>	<p>◇児童の肯定評価は高いが、保護者の肯定評価は前期と比べ大きく下がっている。児童はできていないつもりでも、保護者から見るとできていないなど、児童と保護者で評価する基準に差があると考えられる。</p> <p>◆「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発を継続していく。早寝・早起きについては明確な時間を示したり、睡眠の大切さを伝えたりし、児童が時間を守るよう啓発を行う。朝ごはんについては児童保健委員会で発表した内容を基に、保健だより等を通じて家庭に啓発する。</p>	<table border="1"> <tr><td>児童(Q11)</td><td>45.8</td><td>41.7</td><td>8.4</td><td>4.1</td></tr> <tr><td>R5前期</td><td>41.7</td><td>41.7</td><td>12.5</td><td>4.1</td></tr> <tr><td>保護者(Q5)</td><td>20.0</td><td>46.7</td><td>33.3</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>R5前期</td><td>33.3</td><td>50.0</td><td>16.7</td><td>0.0</td></tr> </table> <p>児童の肯定評価：87.5% 保護者の肯定評価：66.7%</p>	児童(Q11)	45.8	41.7	8.4	4.1	R5前期	41.7	41.7	12.5	4.1	保護者(Q5)	20.0	46.7	33.3	0.0	R5前期	33.3	50.0	16.7	0.0											
児童(Q11)	45.8	41.7	8.4	4.1																															
R5前期	41.7	41.7	12.5	4.1																															
保護者(Q5)	20.0	46.7	33.3	0.0																															
R5前期	33.3	50.0	16.7	0.0																															
井上	6 安全・安心な学校づくりの推進	B	<p>防災に努め、定期的な点検を実施し、施設・設備の維持管理、安全確保に努めているか。</p> <p>目標値：教職員・保護者・地域住民の85%以上が肯定</p>	<p>◇教職員の4の評価は100%となり、保護者の肯定評価も86.7%と高くなっている。防災教育を推進することにより、教員や保護者の防災や安全への意識が高まったと考えられる。しかし、地域住民の評価は前期に比べて下がっている。地域を巻き込んだ防災教育については課題がある。</p> <p>◆防災教育への取組は、今年度で大きく進んだ。今後は、学校での取組だけでなく、地域避難訓練、地域防災学習会等、地域を巻き込んだ取組を推進していく。</p>	<table border="1"> <tr><td>教職員(Q5②)</td><td>100.0</td><td>0.0</td><td>0.0</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>R5前期</td><td>42.9</td><td>57.1</td><td>0.0</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>保護者(Q11)</td><td>40.0</td><td>46.7</td><td>13.3</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>R5前期</td><td>16.7</td><td>75.0</td><td>8.3</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>地域住民(Q7)</td><td>23.5</td><td>41.2</td><td>5.9</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>R5前期</td><td>31.3</td><td>50.0</td><td>6.3</td><td>0.0</td></tr> </table> <p>教職員の肯定評価：100% 保護者の肯定評価：86.7% 地域住民の肯定評価：64.7%</p>	教職員(Q5②)	100.0	0.0	0.0	0.0	R5前期	42.9	57.1	0.0	0.0	保護者(Q11)	40.0	46.7	13.3	0.0	R5前期	16.7	75.0	8.3	0.0	地域住民(Q7)	23.5	41.2	5.9	0.0	R5前期	31.3	50.0	6.3	0.0
			教職員(Q5②)	100.0	0.0	0.0	0.0																												
R5前期	42.9	57.1	0.0	0.0																															
保護者(Q11)	40.0	46.7	13.3	0.0																															
R5前期	16.7	75.0	8.3	0.0																															
地域住民(Q7)	23.5	41.2	5.9	0.0																															
R5前期	31.3	50.0	6.3	0.0																															
井上	A	<p>防災教育の充実を図り、自分の命は自分で守ろうとする態度が育っているか。</p> <p>目標値：教職員・児童の85%以上が肯定</p>	<p>◇教職員、児童とも肯定率は100%であるが、児童の4の評価は前期に比べて下がっている。さまざまな場面を想定した避難訓練を実施することで、多くの課題を見付け、不安な思いも大きくなったと考えられる。</p> <p>◆今後も、さまざまな場面を想定した避難訓練を実施し、「自助」から「共助」へと意識やスキルを高めていく。</p>	<table border="1"> <tr><td>教職員(Q5⑤)</td><td>100.0</td><td>0.0</td><td>0.0</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>R5前期</td><td>71.4</td><td>28.6</td><td>0.0</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>児童(Q8)</td><td>87.5</td><td>12.5</td><td>0.0</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>R5前期</td><td>100.0</td><td>0.0</td><td>0.0</td><td>0.0</td></tr> </table> <p>教職員の肯定評価：100% 児童の肯定評価：100%</p>	教職員(Q5⑤)	100.0	0.0	0.0	0.0	R5前期	71.4	28.6	0.0	0.0	児童(Q8)	87.5	12.5	0.0	0.0	R5前期	100.0	0.0	0.0	0.0											
教職員(Q5⑤)	100.0	0.0	0.0	0.0																															
R5前期	71.4	28.6	0.0	0.0																															
児童(Q8)	87.5	12.5	0.0	0.0																															
R5前期	100.0	0.0	0.0	0.0																															
協議会委員 学校運営	7 その他 学校運営協議会委員の見所	A	<p>【1 確かな学力の定着と向上に努める】</p> <p>○先生方の研究授業の成果が出ていることは、とても良いと思う。複式学級で負担も多いと思うが、子どもたちのために日々頑張っているのが伝わる。○子どもたちは、自分の考えを話したり書いたりするのが苦手で、学校がそのことを把握して対応しようとしていることが良い。家庭学習は、親が責任を持ってやる必要がある。コンピュータを使った学習が良い。○子どもたちがすっかりコンピュータに慣れていて、よく使えるようになっているのに驚いた。授業中の、コンピュータの活用が図られている。○家庭学習は、親の協力が必要である。○インターネットで調べればなんでも分かる時代だからこそ、調べられる能力を身に付けさせなければならない。</p> <p>【2 生徒指導の徹底と健全育成に努める】</p> <p>○子どもたちの挨拶は、できていると思う。今の時代、不審者や良くないニュースを耳にするので、「積極的に知らない人にも挨拶をする」「愛想良くする」ということは、重視してくれないのではないかと個人的には思っている。ハートレターの取組は、とても良い。○今年度から、登校時にスクールバスを学校まで走らせるようにしたが、以前のように途中で下りて歩かせることで、見守り隊の方々にも挨拶をすることができるので、歩かせた方が良いのではないかと。○地域住民も、笑顔で挨拶をするようにならなければいけない。○登下校や遊びに行く時など、元気な挨拶をしてきている。学校運営協議会で出たように、地域の方が挨拶をしないことがあるかもしれない。耳が遠かったり、すぐ反応しにくかったりするお年寄りもいるので、返事をしなくても挨拶してもらおうと喜んでいてと思う。子どもたちから、たくさん声かけを続けてもらおうとありがたい。○子どもたちの小さな変化を見逃さない。○自分から上手に挨拶できない子どもたちもいると思う。地域の人から子どもにも挨拶して、子どもたちが挨拶しやすい環境を作ると良い。</p> <p>【3 教職員の資質・能力と学校組織の活性化】</p> <p>○先生方も、健康で楽しく学校に来てくれると嬉しい。児童と先生との距離が近いのは、小規模校ならではの良さだと思う。○環境整備等、地域に投げ掛けると、協力される方がたくさんいると思う。遠慮なく呼び掛けて、草引きなど依頼してもよいと思う。地域コーディネーターとして協力する。○校長先生の下、いろいろな取組を学校運営協議会で聞いて、感じている。○先生たちも新しいことにチャレンジして、子どもたちのお手本になっている。</p> <p>【4 豊かな心を育てる】</p> <p>○一番は、家庭の温かさである。親からの愛情を、いかに受けているかだと思う。年末に平塚では、三世交代交流会を行った。子どもたちに参加してもらったことで、年配の人たちが「元気をもらった」と喜んでくれた。</p> <p>【5 健康教育の推進】</p> <p>○家庭ではなかなか運動習慣が付きにくいので、学校体育やスポーツ少年団があって助かっている。○週末には、家串公園で小学生や中学生が遊んでいる声が聞こえる。とても良いことだと思う。○朝ごはんをちゃんと食べる。車を使わず歩かせる。○早寝早起き朝ごはんは、各家庭で保護者も一緒になって取り組まないと難しいのではないかと。</p> <p>【6 安全・安心な学校づくりの推進】</p> <p>○防災学習は、引き続き学び続けてほしいと思う。大人が、もう少し積極的に防災に取り組むたい。○防災については、子どもたちの方が意識が高い。地域住民の中にも、地域合同の避難訓練に参加しない人がいる。子どもたちはよく頑張っていると思う。○地域といよいよに学べたと思う。平塚での防災の勉強会に、子どもたちもよく参加してくれた。○地域との連携が必要。地域も子どもたちの力が必要。○子どもたちは、防災に対しての意識が高く、地域防災の主役であり、これからは地域の人たちを引っ張ってほしい。</p>																																